

お札と切手の 博物館 ニュース

Banknote and Postage Stamp
Museum News

Contents

特別展余録 新日本銀行券発行に伴うお札と切手の博物館の取組

収蔵品紹介 女性作家・教育者を描いたお札

2024/12/1
Vol. 55



令和6年度 特別展

お札の誕生祭

～新しいお札がやってきた!～

2024年 I期 7月3日(水)～9月1日(日) II期 9月3日(火)～12月22日(日)

『新日本銀行券発行に伴うお札と切手の博物館の取組』

令和6(2024)年7月3日に20年ぶりに新しい日本銀行券が発行されました。

お札と切手の博物館では、これに因み新しいお札をテーマとする特別展を開催し、その肖像や偽造防止技術などの情報発信を行い、新しいお札についての知見を深めていただく機会としています。

ここでは、特別展以外に館内外において行った様々な取り組みについて、活動記録としてその一端をご紹介します。



【常設展示・偽造防止技術体験コーナーの更新】

お札と切手の博物館では、令和5年に新日本銀行券のデザインや偽造防止技術などを紹介するコーナーを常設展示に新設したことに続き、令和6年は、偽造防止技術体験コーナーを新しいお札に対応した内容としてリニューアルしました。

この更新では、解説パネルのほかホログラムと特殊発光インキの体験装置を刷新しました。

ホログラム体験装置は、新旧のお札のホログラムを比較できるような仕様としており、新しく採用した3Dホログラムの特長が分かりやすくなっています。そして、特殊発光インキの体験装置は、お札の紫外線による発光状態を見るのぞき窓の位置を変更し、装置の高さも調整できるものとする事で、大人も子供も観察しやすくする工夫をしました。



左上:ホログラム体験装置
右下:特殊発光インキ体験装置

【デジタル展示と特別展観覧動画発信】

ITが生活に浸透していることを背景に、この度改正された博物館法では、資料のデジタルアーカイブの作成と公開が事業の一つとして位置付けられています。このように、博物館においてもITを利用した活動が重要視されるようになりました。

お札と切手の博物館では、新型コロナウイルスの感染拡大を機にデジタル企画展やティザーサイト*をホームページ上で公開するなど、ITを使った情報発信を重ねてきました。当初の目的としては、コロナ禍において外出がままならない状況下や遠隔地の方々に向けた博物館展示の観覧機会の創出にありました。

デジタルを使った展示は資料を部分的に拡大して見せることが容易にできることから、お札などの精細な製造技術を紹介する当館にとっては非常に有用性があり、より効果的なコンテンツを目指して製作を続けていくこととなりました。

最初に製作したのは、いくつかの静止画ページからなる簡単な構成(図1)によるものでした。続いて、お札のすかしを利用者が探して確認できるような体験など、画像の動的表現を活用したコンテンツを製作することで(図2)、展示資料についてより分かりやすく、見やすくする取組を行っています。

このようにホームページ上でのデジタルコンテンツを継続して公開してきましたが、このたびの特別展においてはこれまで試みていなかった動画製作を行うこととし、会期後半の展示内容に対する解説を加えた観覧動画(図3)を公開しました。

これは、従来ホームページ上でテキストコンテンツとして掲載していた見どころ解説を動画化したものです。

その構成としては、特別展の雰囲気が伝わりやすいよう、最初に全体の様子をコンパクトにまとめた後にコーナーごとの見どころについて解説を行い、最後には実際に観覧された方の展示に対するコメント映像を付加することで、コマーシャルの役割も兼ねるような作りとし、来館意欲を喚起するような工夫を行いました。

今後は今回の動画の導入の成果を踏まえ、より展示の



【図1】初めてのデジタル展示
令和3年度Web展示「お札の国で世界をまなぶ」
フロントページ(部分)
この時は静止画像を遷移させて見せるのみに留まった。



【図2】デジタル展示の一部
令和5年度秋の特集展「すかしの技と美」
特設ページ
お札にカーソルを当てるとその部分の透過画像(矢印部分)を見ることができる。



【図3】観覧動画の一場面

*ティザーサイト…展示開催前に公開する広告ページ

魅力を伝えられるような動画の活用方法を検討し、来館者の満足度の向上に努めていきたいと思えます。

【対外的な活動】

新日本銀行券の発行は、大きな出来事としてマスコミに多く取り上げられたこともあり、世間の関心を集めました。お札と切手の博物館でもお札に関する出張講座など対外的な活動を行う機会が増え、お札の情報をより広く発信することができました。また、新しいお札の肖像となった人物にゆかりが深い地域や団体による記念イベントも多く開催され、これらに協力参加することで、地域や関連団体との連携を深めることができました。

以下、その例を挙げると、埼玉県立歴史と民俗の博物館で開催されたお金をテーマとした特別展『お金を出して!-お金のふしぎ探検隊-』の会期中に同館内で出張展示を行いました。

この展示を通して、新日本銀行券の紹介はもとより現在の製造技術の礎となったすき入れ技術と原版彫刻技術についての資料を展示するとともに、150年余りにわたるお札の製造の歴史をご紹介しました(図4)。

また、東京都北区の渋沢史料館において同館が開催する新日本銀行券の発行記念企画展『渋沢栄一肖像展Ⅱ』の期間中に行われた関連シンポジウム「〈つたえる〉〈つながる〉〈つくる〉博物館の活動」にパネラーとして参加しました。

このシンポジウムでは、新日本銀行券に関連した展示を行っている博物館や博物館資料のデジタルアーカイブに携わる企業が各館で開催した企画展の概要などそれぞれの活動や事業について報告するというものでした。

各館で改刷(新しいお札の発行)に起因した企画展示が開催されたことで新しいお札に関する重層的な情報提供につながり、ひいては博物館による学習活動の支援に相乗効果をもたらしたと思われ、博物館活動の社会的な役割を再認識した機会となりました。

その他、国立公文書館、日本銀行貨幣博物館との3館周遊スタンプラリー(図5)にも参加し、新たな関係性の構築を行いました(ラリーは終了しました)。

(学芸員 松村 記代子)



【図4】出張展示の様子



【図5】スタンプラリーの台紙

女性作家・教育者を描いたお札

2024年7月3日、20年ぶりに新しい日本銀行券が誕生し、新しいお札の肖像は、1万円札は福沢諭吉から渋沢栄一へ、5千円札は樋口一葉(図1)から津田梅子(図2)へ、千円札は野口英世から北里柴三郎へと様変わりしました。

前回の5千円札には、日本銀行券として初の女性の肖像に樋口一葉が選ばれ、今回の新しい5千円札でも津田梅子と言うように、一つ前のお札に引き続き5千円札の肖像は女性が選ばれています。

樋口一葉は「小説」という手段で女性の生き方を追い求め、津田梅子は女子教育の発展に尽力しました。二人はそれぞれ、小説家として、教育者として世の中を大きく動かし、その功績は現在でも色褪せることはありません。

海外に目を向けると、やはり女性の作家や教育者を肖像とする紙幣が存在しています。女性たちはどのような背景で、お札の肖像となったのでしょうか。本稿では、日本と世界の女性作家・教育者を描いたお札と、彼女たちが成し遂げたお札の顔となるにふさわしい偉業についてご紹介します。



図1



図2

■紙幣の肖像に選ばれた樋口一葉と津田梅子■

一つ前の5千円札の肖像に採用された樋口一葉(本名:樋口奈津; 1872年-1896年)は、既述の通り日本銀行券として初の女性の肖像となり大きな注目を集めました。この度の5千円札の肖像にも女性が選ばれ津田梅子はその顔となりました。

樋口一葉を5千円札の肖像とした理由について改めて確認しますと、財務省は「女性の社会進出に配慮し、また、学校の教科書にも登場するなど、知名度の高い文化人の女性から採用したもの」(財務省ホームページ「よくある質問」より)としています。

樋口一葉は明治時代の文壇に登場した女性作家で、「にぎりえ」や「たけくらべ」の作者であることは広く知られています。社会の片隅に生きる人々の声なき声をすくい取り、とりわけ明治時代の女性の生き辛さを小説の題材として取り上げ、世に問うた稀有な作家であり、「女性小説家」という職業を、日本で初めて確立させた人物であるとも言えます。

津田梅子(本名同じ: 1864年-1929年)を新5千円札の肖像とした理由について、財務省は「傑出した業績を残すとともに、長い時間を経た現在でも、私たちが課題としている新たな女性の活躍といった面からも、日本の近代化をリードし、大きく貢献した」(財務省ホームページ「よくある質問」より)ことを挙げています。

津田梅子は、元佐倉藩士で農学者の津田仙・初子夫妻の次女として江戸に生まれました。6歳の時に、岩倉具視率いる使節団の一員としてアメリカに渡った、我が国初の女子留学生です。2度目の留学から帰国した後、明治30(1900)年に女子英学塾(現在の津田塾大学)を創立し、女性の高等教育と英語教育に大きく貢献した女子教育界のパイオニアの一人とされています。

亡くなる直前まで窮乏にあえぎながらも名作を書き続けた樋口一葉と、明治時代に外国で教育を受け、学校を創立し

た津田梅子とではその人生は大きく異なりますが、2人とも強い意志を持ち、女性による文学、教育の分野において、日本の礎を築いた偉人であることは紛れもない事実であり、お札の肖像としてふさわしい人物であることが理解できます。

■世界のお札に見る女性の肖像とお札に描かれた関係性■

ところで、世界のお札に目を向けると、女性の作家や教育者がお札の肖像に選ばれている例は少なくありません。ここでは、当館が所蔵する資料の中から、それらのお札をご紹介します。

女性作家がお札の肖像に選ばれている一例として、1991年に発行されたスウェーデン20クローナ紙幣があります。スウェーデンでは、お札の肖像を決定する際に①文化的貢献②20世紀に活躍した人物③大衆の支持と国際的な評価の3点を基準として選ぶとし、且つ、男女を等しく採用するとしています。

スウェーデン20クローナ紙幣の表面に印刷された肖像は、女性作家のセルマ・ラーゲルレーヴ(Selma Ottilia Lovisa Lagerlöf;1858年-1940年)です(図3)。セルマは、妖精の魔法で小人にされてしまった少年ニルスが、がちょうのモルデンや雁の群れと共に、スウェーデンの国中を旅するストーリーで知られる童話「ニルスの不思議な冒険」(原題:「ニルス・ホルガーソンのスウェーデンの素晴らしい旅」)の作者です。女性で初めてノーベル文学賞を受賞し、また、スウェーデンアカデミーの会員として名を連ねました。そして、スウェーデンクローナ紙幣に初めて登場した女性作家でもあります。

お札の表面にはセルマの肖像と共に、直筆原稿「サガ」の画と自身が乗客のひとりである馬車が配されています。裏面は「ニルスの不思議な冒険」に由来する図柄となっています(図4)。主人公のニルス少年が、がちょうのモルデンの背中に乗り、スウェーデン南部のスコーネの平地上空を飛んでいるシーンが採用されています。

ちなみに、このお札の後を受けたスウェーデン20クローナ紙幣の肖像(図5)も、引き続き女性作家が採用されました。「長くつ下のピッピ」の作者であるアストリッド・リンドグレン(Astrid Anna Emilia Lindgren;1907年-2002年)です。

「長くつ下のピッピ」の主人公であるピッピは、おさげ頭に左右で色の違う靴下を履いた力持ちの女の子です。常識や大人の尺度にとらわれない天衣無縫な日常が、世界中の子供たちから絶大な支持を得て、100か国以上の国々で翻訳されました。スウェーデン政府はリンドグレン亡き後、その功績を称え、アストリッド・リンドグレン文学賞を創設しました。

スウェーデン20クローナ紙幣の表面は、肖像、おさげ頭のピッピが手を振りながら快活に歩く姿と、ピッピの向かって左側に2冊の本の見開きが配されています(図6)。2冊の本のうち上部の本には、リンドグレンが述べた子供時代の本の大切さが記され、下部の本左頁(図7)には、ピッピの家の隣人であるトミーとアニカ兄妹がピッピの家に初めて遊びに行きそろそろ家に帰る時間になった時、ピッピがふたりに言った台詞が引用されています。



図3



図4



図5



図6



図7



図8

(翻訳)

さあ、もううちに帰ったら?うちに帰れば、明日もここに來れるじゃない?

うちに帰らなければ、またここに來ることができないでしょ?そんなの、いやだもの。

下部の本右頁には、「ピッピ」シリーズ3部作の最終巻である「南洋の長くつ下のピッピ」からの引用で、「大人になんて、なりたくない(意識)」とあります(図8)。「ピッピ」3部作では、限りある子供時代が一つのテーマに設定されており、「大人になんか、なりたくない」とする台詞は、「ピッピ」物語の要の一文を引用していると言えるでしょう。

裏面(図9)は、リンドグレーンの故郷であるスウェーデン南部のスモーランドの景色になっています。

スウェーデンでは、紙幣の表面には個人の肖像を、裏面にはその肖像の人物と結びつく自然や環境を選ぶとされています。このため、スウェーデン20クローナ紙幣2種を眺めるだけでも、表面の肖像に対し、裏面には代表作のワンシーンや故郷の情景を採り、表裏面の深い関係性を認めることができます。このような関連は、紙幣に刻まれた2人の女性作家の横顔を明確にする効果をもたらしていると言えるでしょう。



図9

■紙幣に現れた女性の肖像-教育者-■

一方、教育者であり学校を創立した女性がお札の肖像となっている例は、2008年にパラグアイで発行された2000グアラニ(図10)があります。通貨単価「グアラニ(Guarani)」とは先住民族「グアラニ族」に由来しています。



図10

このお札の肖像は、戦争により荒廃したパラグアイの教育制度を再構築したアデラ・スペラティ(Adela Speratti;1865年-1902年)と妹のセルサ・スペラティ(Celsa Speratti;1868年-1938年)姉妹です。

1864年に勃発し、およそ6年間も続いた三国同盟戦争は、パラグアイの歴史の中でも最も深刻で悲惨な事件として、この国の人々の脳裏に刻まれています。長くアルゼンチン共和国で教育を受け知性を磨いたスペラティ姉妹は、この三国同盟戦争を生き延び、経済的逆境の只中において、粘り強く初等教育の重要性を説きました。

スペラティ姉妹が設立した学校は、パラグアイ初の師範学校である、あるいは女子公教育師範学校であるとも言われ諸説存在していますが、いずれにせよ師範学校の設立は、パラグアイの隅々まで、教員の体系的な研修制度を推進させるという考えを浸透させました。スペラティ姉妹は、先駆的な教育者として認識されるにとどまらず、後年の教育者たちが模範とする人物として、人々の尊敬を集めています。パラグアイの教育への確かな貢献が、お札の肖像に採用された大きな理由であったと言えるでしょう。

裏面(図11)は、国旗を掲げた学生によるパレードの様子です。



図11

■おわりに■

お札に採用される図柄には、自国民に伝えたいこと、他国の人々に知ってほしい文化や歴史などに関するメッセージが込められています。この度の新しいお札の発行を機会に、今一度お札に現れた肖像や裏面の図柄に込められたメッセージを考えてみてはいかがでしょうか?

(学芸員 林 直子)

参考資料

- ・スウェーデン国立銀行ホームページ
- ・パラグアイ中央銀行ホームページ
- ・『ピッピ南の島へ』アストリッド・リンドグレーン 作 川北 亮司 文金の星社 2001年1月
- ・『長くつ下のピッピ』アストリッド・リンドグレーン 作 菱木 晃子 訳 岩波書店 2007年10月

COMING SOON
展覧会予告

令和6年度
特集展

お札の模様

流線が描くArt 工芸官作品展

2025年1月15日(水) ▶ 3月9日(日)



工芸官と呼ばれる国立印刷局の専門職員は、お札の原版の彫刻や、すかしの作製に携わるほか、お札のデザインに欠かせない幾何学模様「彩紋さいもん」の作製も行っています。

彩紋は、数学的知識をはじめ、創造力、デザイン力を駆使して作製される特別な模様で、偽造防止を目的に150年前からお札に採用されてきました。

本展では、技術練磨や研究などを目的に工芸官が作製した「彩紋画」をご紹介します。彩紋の曲線や精緻な表現を活用した芸術性の高い流線のArtをぜひ会場でご覧ください。

また、会期中の2月から3月中には、凹版印刷体験イベントも実施します。ふるってご参加ください。

イベント
(無料)

【凹版印刷体験】

お札に使われる印刷方式「凹版印刷」を体験できます。完成した印刷物は、記念にお持ち帰りいただけます。



所要時間 体験時間約20分+乾燥時間約10分

開催日時 以下の各日10:00～11:50(受付開始9:50～)
13:10～16:00(受付開始13:00～)

2月 1日(土)、2日(日)、7日(金)、8日(土)、11日(火 祝)、14日(金)、15日(土)、16日(日)、21日(金)、22日(土)、23日(日)、24日(月 祝)、28日(金)

3月 1日(土)、2日(日)、7日(金)、8日(土)、9日(日)

※体験当日の午前と午後に受付を行います。体験には約30分程度の時間を要するため、早めに受付を終了する場合があります。ご了承ください。
※体験の対象者は小学生以上とさせていただきます。

ご利用案内

入館無料 開館時間: 9:30-17:00
休館日: 月曜日(祝日の場合は翌平日)
年末年始、臨時休館日

独立行政法人 国立印刷局
お札と切手の博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-6-1
TEL.03-5390-5194
<https://www.npb.go.jp/museum/index.html>

お札と切手の博物館

交通 JR京浜東北線「王子駅」(中央口)下車 徒歩3分
東京メトロ南北線「王子駅」(1番出口)下車 徒歩3分
都電荒川線(東京さくらトラム)「王子駅前」下車 徒歩3分
*駐車場はありません。

常設展 新しい日本銀行券の紹介
偽造防止技術の歴史—印刷・製紙技術
重要文化財 スタンホープ印刷機
お札の移り変わり/世界のお札/
切手の移り変わり/世界の切手/
国立印刷局の歴史/
*特別展開催時は一部展示の変更があります。



発行: お札と切手の博物館(国立印刷局博物館)
発行日: 令和6年12月1日 ©2024

本書掲載の内容を許可なく複写、複製、転載することを禁じます。

※この冊子は再生紙を使用しています。